

平成 28 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	平成28年岩手県産水稻の生育経過の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析		
[要約] 本年は活着、初期生育とも良好だったが、6 月中下旬の寡照により分けつが抑制されたため、穂数は平年をやや下回った。m ² 当たり籾数は平年を下回ったが、千粒重は平年並みで、登熟歩合が平年を上回ったことから、作況指数は「102」となり、玄米品質も良好だった。					
キーワード	水稻	作柄	品質	○技術部作物研究室、県北農業研究所作物研究室、環境部生産環境研究室・病理昆虫研究室、病虫害防除部病虫害防除課	

1 背景とねらい

本県の技術対応に資するため水稻生育経過と作柄・品質の成立要因を明らかにする。

2 成果の内容

(1)平成 28 年度の生育経過の特徴

ア 育苗期は5月上旬の寡照により、移植期の苗は地上部乾物重が平年をやや下回り、苗の充実度(乾物重/草丈)も平年をやや下回った。

イ 活着、初期生育とも良好だったが、6月中下旬の寡照により分けつ発生は緩慢となり、分けつ盛期(6月24日)の茎数は全県で平年比91%だった。

ウ 最高分けつ期の土壤中アンモニア態窒素が平年を下回るまで低下したことから、幼穂形成期を重点に窒素成分で2kg/10aを上限に追肥を指導した。

エ 出穂期は平年より1日程度早く、登熟期前半は高温多照により登熟が促進されたが、登熟後半は寡照によりやや緩慢に進み、成熟期は平年並みだった。

オ 葉いもちは、前年の穂いもち発生量が平年より少なく伝染源量が少なかったことや、7月後半の降水量が平年より少なかったことから発生量は少なかった。葉いもちの上位葉における発生は平年より少なかったことや、8月前半にほとんど降雨がなく穂いもちの感染に不適だったことから、穂いもちの発生量は平年より少なかった。

カ 紋枯病は、前年の発生量が平年より多く伝染源が多かったことや、8月中旬～9月上旬の高温・多雨による病勢の後期進展が見られたことから発生量は多かった。

(2)平成 28 年度の収量及び収量構成要素と特徴

穂数、一穂籾数とも平年よりやや少なく、m²当たり籾数は平年を下回ったが、玄米千粒重は平年並みで、登熟歩合は良好だったことから、作況指数は県全体で「102」(10/28 公表)のやや良だった。

(3)平成 28 年度の玄米品質と特徴

水稻うるち玄米の1等米比率は97.7%(昨年同期95.5%)と高く、2等以下に格付けされた主な理由は着色粒(カミシ類等)だった(H28.11月末現在)。

穂揃期において、登熟に寄与する非構造性炭水化物(NSC)の蓄積が多かったこともあり、玄米品質は良好だった。

3 成果活用上の留意事項

全県を対象とした解析であり、各地域の実態と異なる場合がある。

4 成果の活用方法等

(1)適用地帯又は対象者等 農業改良普及センター等指導機関

(2)期待する活用効果 水稻の生育と作柄・品質の成立要因を明らかにし今後の技術対策に資する。

5 当該事項に係る試験研究課題(805-1100) 水稻作況調査と作柄成立要因の解析 [H14～30(県単)]

6 研究担当者

永富巨人、齊藤智宏

7 参考資料・文献

(1)平成 28 年産水稻の収穫量(東北) 東北農政局統計部

(2)平成 28 年産米の検査結果(速報値)(岩手)(平成 28 年 11 月末日現在) 東北農政局岩手県拠点

8 試験成績の概要(具体的なデータ)

2016年 水稻作柄解析概略図(案)

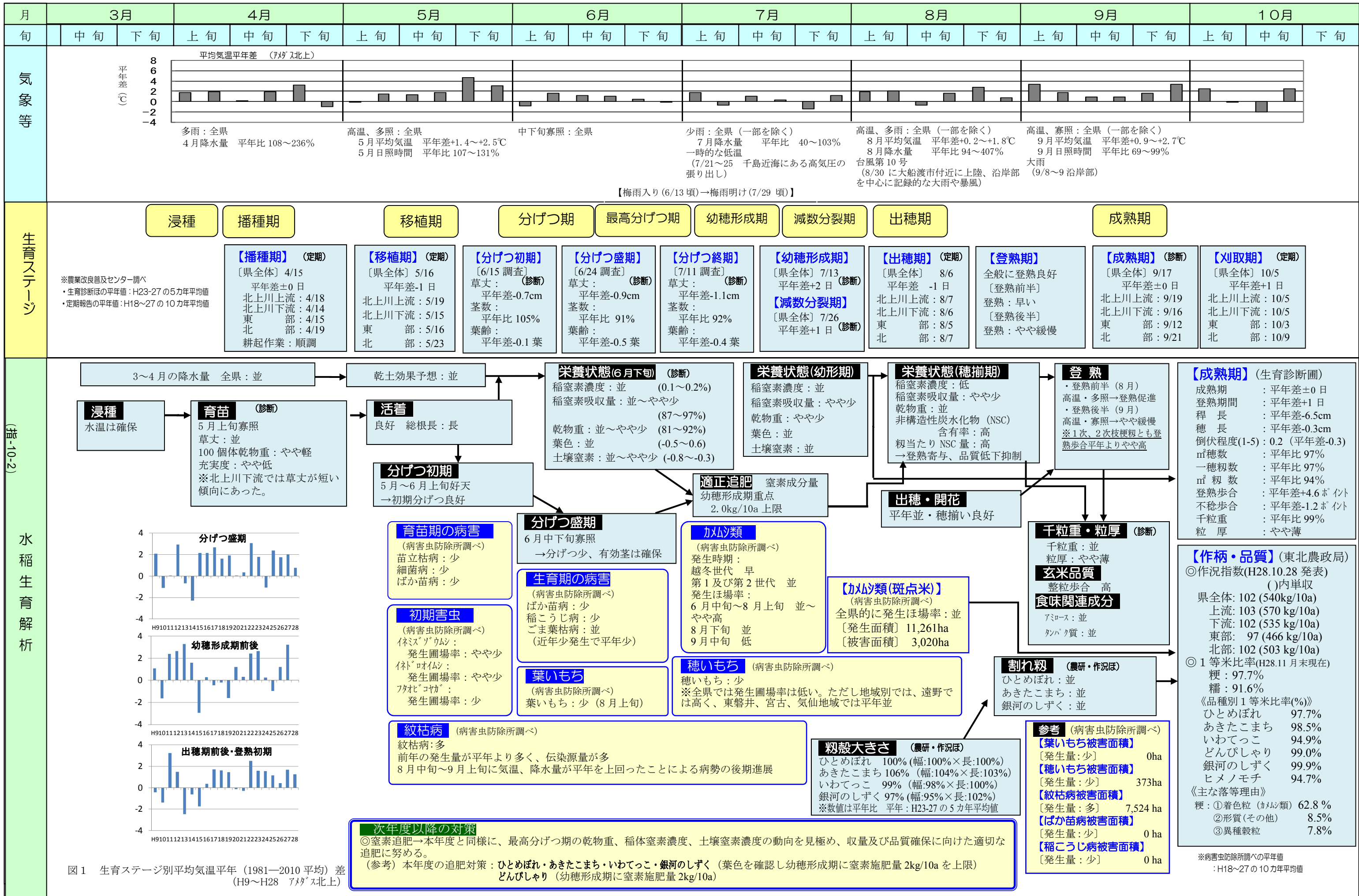


図1 生育ステージ別平均気温年差 (1981—2010 平均) 差 (H9~H28 アマガシ北上)

※病害虫防除所調べの年次値
：H18~27の10カ年平均値